

## はじめに

～立ち読みしているあなたへ～

それは、東京の世田谷区にある喫茶店で起きました。

ボクが授業やセミナーで言うことがあります。「本番より前に、必ず模試を使ってリハーサルしてくださいね。2時間かかりますが、1回や2回はできるはずですよ」と。ですから、自分も同じ体験をするために、ある有名な模試をカバンに忍ばせ、喫茶店に飛び込んだのです。広めのテーブルを確保。いつものカフェオレが運ばれました。マークシートを前に鉛筆を手にして、音声プレーヤーのトラック1をセット。邪念を振り払い、臨戦態勢を整えました。再生ボタンをプッシュ。2時間の戦いが始まりました。重大なミスに気づかないまま……。

リスニングセクションのパート2までは順調でした。ところが、パート3の55番を解答した直後に、右フトモモが震えたのです。携帯です。ズボンのポケットの中でブルブルしています。無視できず取り出すと画面には「ロバート」の文字。TOEIC関連の仕事と一緒にしているロバート・ヒルキ氏が、セミナーの打ち合わせを設定するためにかけてきたのです。

結局、10分ほど中断してからパート3に戻りました。携帯の電源を切らなかったのはボクのミスですが、その後も店員が水を交換したり、隣に元気がいい高校生グループが来たりして、とても「リハーサル」とは呼べない環境になりました。自宅でやるべきだったと反省すると同時に、多くの人にも似たことが起きているだろうと思ったのです。

TOEIC対策に真剣に取り組むならば、模試を体験するのは大切です。それは間違いないですが、2時間連続で取り組むのは、ある人にとって当たり前でも、別の人にとっては「ありえねえ」ことでしょう。短時間で全パートを走り抜けるミニ模試があれば、そのような方々に少しは貢献できると気づきました。喫茶店で体験が、本書を作ったきっかけです。ただし、ミニ模試

であるがために欠点もあります。その1つは「予想スコア」がないことです。

世にある模試の多くには予想スコアを算出する表が掲載されていますが、この本にはありません。何しろミニサイズですから「この模試の正答数がこれくらいなら、本番は何点」なんてウソは書けません。書いても信じないですよ。予想スコアはあらかじめください。

はい、ここで言いたいことは以上です。でも、レジに行くのは早いです。この後、大切なメッセージが続きますので。

第160回 TOEIC 公開テストを受けた日に

ヒロ前田

## 「語注」を問う

ここから先は重要です。なぜなら、ここを読まずに本書を買ったと、あなたが失意の底に沈んでしまうかも知れないからです。それを防ぐために、出版社に断固申し入れ、強引にこのページを入れました。読んだ結果、やはりガッカリする可能性も高いですが、少しだけお付き合いください。

ある日、編集者から、こんな相談が届きました。この本を書き始めて間もないころです。

『読解特急①』に対して読者の方から「語注がないのでつけてください」という電話やメールを多数いただきました。読者層の裾野を広げる意味でも、やはり語注のようなものは入れたほうが良いと存じますが、いかがでしょうか』

「読解特急①」は、この本を含む「特急シリーズ」の1冊です。ボクは次のように回答しました。

「語注」が「単語と日本語訳」を指すのであれば、絶対に入れません。語注を希望している方は「ない」と「ある」を比べて「ある方がいい」と言っているのでしょうか、ちゃんと理由を説明している人はいますか。大切なのは、語注があるかどうかではなく、力を伸ばすことにはずです。目の前に英語と日本語訳があるのに語注を希望するのは、単に楽をするためではないでしょうか。ボクは、語注が読者の力を伸ばさないどころか有害だと考えていますので、理由がないリクエストには応じません。語注を入れない理由を説明するページを確保できるなら、書きますよ。

「語注」とは、会話や文書に登場する単語やフレーズを抜き出して、日本語訳を併記したリストを指すのが一般的です。ボクのパソコンは「語注」を漢字変換できませんので、日本語として存在するかどうか怪しいですが、それはともかく、この本には語注がありません。その理由を説明します。

### 語注を入れない理由<sup>わけ</sup>

#### 1. どうせ忘れる

ていねいな語注があると、自分が知らない語彙やフレーズに簡単に気づきます。そして、その単語の意味を覚えようとするでしょう。ところが、知らない単語と日本語訳を1対1で覚えようとするのは、非常に効果が小さいと言わざるを得ません。理由は割愛しますが、あなたもその事実に気づいているのではないですか。単語と日本語訳を見比べて語彙を増やせるならば、語彙で悩む英語学習者はいません。いわゆる単語本が「売れ筋」になるのは、効果が小さいからなのです。大まかに言えば、効果が大きければ、みんな1冊だけ使えば語彙力がドカンと伸び、誰も買わなくなりますよね。

#### 2. メッセージの単位はセンテンス

英語の語彙について重要なのは、ある言葉の意味を日本語で知っていることではありません。その言葉を含むメッセージを正しく理解できることです。メッセージの最低単位は単語では

なく、単語が集まったセンテンスですから、せめて文単位で英語を理解するよう努めることが語彙力を伸ばすうえで大事です。ある言葉の意味は、センテンスやストーリーが与えられて初めて明確になりますから。ですから、単語と意味をリスト化した語注は決して必要なものではないのです。

「でも、文単位で理解するには、単語の意味を知らなければ無理です」

確かにその通りですが、それは「語注が必要」である理由にはなっていません。いわゆる語注は、文脈やほかの語との組み合わせをあまり考慮せずに、代表的な意味を掲載するものです。それよりは、会話や文書の英文スクリプトを大切に、日本語訳に目を通すことの方が、よっぽど有益です。語注を望む人は、語注があるがために、会話や文書に接する量や時間が相対的に減るはずです。それは語彙習得にマイナスなのです。ですから、この本には語注と呼べるようなコーナーを作りませんでした。

### その代わり.....

単語と意味をズラズラ並べたリストは作りませんでした。テスト対策の観点から重要だと判断した語彙やフレーズを抜いて、コメントを書いた箇所があります。パートによって切り口が異なります。また、パート7では「知らなくてもいい」語を取り上げた箇所もあります。この本は模試ですから、今すぐ解説ページを読みたくはないでしょうが、よろしければ、チラリとグリーン車マーク付きコーナーを見てください。どういうことか分かります。

ここまで読んで、もしあなたが語注がないことを理由に「この本は自分に向かない」と確信したならば、残念ですが1つだけ言わせていただきます。「はい。この本はあなたに向きません。そして、あなたは英語学習に向きません」と。

以上です。お読みくださり、ありがとうございました。